

拠点に行ってみませんか？

地域子育て支援拠点をよく知らないという方が多いのではないのでしょうか？
そこで、拠点や地域での子育てについて、集まった皆さんと一緒に話しして
それぞれの体験を通して話してもらいました。



三好玲子
「ごっこ」
座談会進行役



津波さやか
娘（4歳）



河越朱加
息子（2歳）



平田美双乃
娘（6歳）
息子（3歳）



土井未来
息子（5歳）
娘（2歳）



原田圭子
市民活動団体で
子育て支援に関わっている



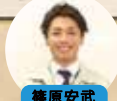
大塚咲子
おばあちゃん
孫（3歳）



栗田夏実
地域子育て支援拠点
「あしひな」職員



納原美津江
柏市地域子育て支援拠点
「はくはくひろば若菜」職員



篠原安武
柏市子育て
支援課職員

三好：皆さん、本日はご参加いただきありがとうございます。
今年の「touch」は、乳幼児親子が気軽に遊びに行ける場所、「地域
子育て支援拠点」（以下「拠点」）をまとめた冊子を作ります。身
近な施設ですが、よく知らないという方が多いのではないでしょ
うか。そこで今日は、拠点や地域での子育てについて、集まった皆
さんと一緒に話していきたいと思います。

縁原：拠点は柏市に22か所ありますが、なかなか知られていないの
が現状です。その拠点を「touch」で情報発信できたら、より利用し
てもらえるのではないかと考えています。今はコロナ禍でどんど
ん遊びに行ってくださいとは言いきませんが、感染症と共存してい
かなければいけない今だからこそ「行きやすい」「相談しやすい」
「仲間を見つけられる」拠点を発見して、利用してほしいなと思
っています。

三好：まずは、子育て中のかたに、拠点の利用について聞いてみま
しょう。

津波：妊娠中は仕事もして、拠点のことは全く知らなかったで
す。子どもが生まれてから、母にBPプログラム（※1）を新聞の切り
抜きで教えてもらいました。参加してみたら、お友達もできてす
ごくよかったです。近くの近隣センターで行われていた「子育てサロン」
（※2）にもよく行くようになって、近所にも知っている人がたく
さんできました。

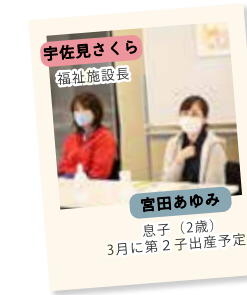
平田：妊娠中は「子育て」というより「無事に産産する」ことをず
っと考えていて、その後のことは漠然と「赤ちゃんがいて楽しくな
るんだろうな。」くらいにしか思っていませんでした。でも、い
ざ子どもが生まれたら、ずっと泣いていて子どもは寝ないし、自分
も眠れないし、何もしていないのに夕方だし、と、ネガティブな気

持ちが続きました。一番近い拠点がベビーカーで30分くらいかか
ったので、そのうちに行かなくなりました。その後、もっと近くに
拠点があるのを知って行き始めました。子どもも遊べるし、先生に
相談もできるし、近くのママとも話せるし、こんないい所あった
んだ！と驚きました。それからは、かなり頻りに利用しています。

河越：妊娠の時、インスタで友達のあげた投稿から拠点を知りまし
た。札幌出身なんですけど、札幌は広すぎて近くで友達ができないと
聞いていたので、マニティの時からお友達を作っておかないとマ
ズい、と思っていました。BPのことは子どもが1歳の時に知りまし
た。すごくいい！と思ったので、もっと早く知りたかった。母子手
帳を取りに行ったときに、教えてくれたらよかったなあとと思い
ました。

土井：長男が6ヶ月くらいの時に、出産した産院の近くの拠点や、
徒歩で行ける「母と子のついで」（※3）には2回くらい行きまし
たね。いざ行ってみると、何というか私が求めていたものと違った
というか。長男は動きが活発なタイプで、他の子と関わって遊ぶこ
とも少なかったし、そのうち行くことが負担になってしまって、行
かなくなりました。二人目が生まれた時は積極的に利用しようとは思
わなかったです。今思うと、子育てで悩んでいた時に拠点に求め
ていたのは「話したい」「誰かに聞いてほしい」ということだった
んだなと思います。
その後、市内で引っ越しをしました。私は運転免許を持っていない
ので徒歩で行けるところしか利用できないです、今は拠点がどこ
にあるのかわからないです。かなり積極的な情報を取りにいかないと
わからないことが多いなあと感じています。

三好：皆さんのお話を聞いて、拠点のスタッフのかたはどう思われ
ましたか。



宇佐見さくら
福祉施設長

宮田あゆみ
息子（2歳）
3月に第2子出産予定。



縁原：はくはくひろば若菜と沼南には、子育て支援アドバイザーがいて、じっくりと話を伺う
ことができるんですよ。皆さんに知ってもらいたいと思いました。また、自宅から「近くに拠
点がある」というのも大切なことだな、と思いました。近くの人と仲良くなると、幼稚園など
に行っても小学校に行ってもつながっていけるんですね。

栗田：私たちは来てくださったかたの気持ちに寄り添っての支援が必要なんだなあと、改めて
感じました。

三好：おばあちゃん立場として、何か思ったことはありますか？

大塚：娘が車で20分位の所にいます。ママの中には、積極的にママ友を作りたいっていうタイ
プと、家にいたいとか、あまり交流を求めていないママもいるような気がします。娘と孫は、
私と一緒にイベントや拠点に行きますが、ママ同士で会話することが少ないと感じることも
あります。そんな時、スタッフさんの存在が大きいと思います。

三好：拠点での、おじいちゃん、おばあちゃんの利用はいかがですか？

栗田：お母さんとおばあちゃんとお子さん、というパターンはよくありますね。娘さんを心配
されて連れてくることもあります。

縁原：ママが復職した後に、おばあちゃんやおじいちゃんがお孫さんと来ることもあります。

原田：私たちが子育てをしている頃は、今のように拠点はたくさんなかったと思います。拠点に
行ってみると、親子共々、そして孫育てをしている人にとっても、刺激をもらえたりするし、チ
ランなども置かれていて、最新の地域子育て情報を知るきっかけにもなると思いますので、どん
どん利用するといいですよね。

三好：パパの利用のことも聞きたいのですが。今は自宅でお仕事をされていたり、勤務形態も多様
になっていたりするので、休日はもちろん、平日でもパパの利用が増えてきた印象があります。

縁原：特に土曜日はパパが多いですね。ママが上手で、初めは一緒に行って、慣れてきた頃
に「行ってみたら？」と言うのだそうです(笑)。パパは子どもと近い目線で自分の子も他の子
も一緒になって遊んじゃうので、場の雰囲気一段と和やかになる気がします。

三好：今日は妊婦さんにも来ていただいています。初めての出産を控えた妊婦さんやそのパ
ートナーも子育て支援拠点を利用できるのですが、ご存知ですか？赤ちゃんを見たり、ママ
やパパの話を聞いたり、出産後の生活をイメージすることもできると思います。

宮田：私は、柏に引っ越してきて3年目で、周りの友達は子どもが大きい人が多いです。「母
と子のついで」には参加していました。上の子の保育園にも、ついでで知り合った人がい
て、つながっています。拠点は利用してはいたのですが、今日、こんなにいっぱいあるん
だあと知ることができたので、ぜひこれから利用してみたいと思います。

宇佐見：仕事で高齢者に関わる事が多いので、「ママの悩みごと」ということに焦点を当て
たことがありませんでした。私の職場には若い人が多いので、これからのライフスタイルの
中で、出産・子育てって経験することだと思います。今日聞いた話や情報をぜひ教えてあげ
たいと思います。

三好：今日はたくさんのお話ができてよかったです。皆さんのお話を聞いて、「touch」を
見て、拠点を知り、「私も行ってみよう！」と思ってくれる人が増えるといいなと思います。
今日はありがとうございました。

※注1「BPプログラム」
生後2～5ヶ月の第1子のお子さんを持ったお母さんを対象とし、子育てについて学んだり、
参加者同士が交流したりする、全4回のプログラム。しこだ児童センター、高柳児童センター
で実施されています。

※注2「子育てサロン」
地区社会福祉協議会や町会などが主体となり開催されている乳幼児親子のついで場。近隣
センターや町会ふるさと会館などで実施されています。

※注3「母と子のついで」
柏市民健康づくり推進員が中心になって実施されている親子ふれあいの場。近隣センターな
どで開催され、保健師や栄養士による相談や講話なども行われています。

